

6. 人間観

6-1. 人間の分類

6-1-3. 身分・家系による分類

旧姓は、五十嵐だったが、養親司馬力弥・ハル夫妻に育てられる。司馬家は、長万部の村長の家系で、養父力弥は、5代目である。

力弥氏の父は、カ八（りきはち）、母はサリという。『アイヌの秋』（ヤン・ハウラサ著、長與進訳、未来社）の表紙はカ八氏の写真である。また、同書にはカ八氏に関する記述がみられる。

養父は、昭和29年11月28日に75歳で亡くなる。菊正氏の子供の名前は、すべて力弥氏がつけた。

力弥氏の遺品は大部分長万部郷土資料館に寄贈された。

[司馬菊正氏]

6-7. 訴訟

シトゥ situは、木でできた棍棒で、表面にギザギザがついている。力弥氏がシトゥを持って映った肖像写真では、ギザギザが図6のようにつけられている。

シトゥは、罰を与える棍棒である。村長が罪人を何回打つか決めます。罪人は皮が剥けるほど打たれる。

[司馬菊正氏]

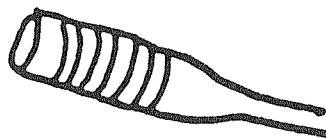


図6. シトゥ